

3. 3 断層モデル等の構築

3. 3. 1 事業概要

本事業は、大都市大震災軽減化特別プロジェクトのテーマⅠ「地震動（強い揺れ）の予測」において、サブテーマ1「大深度弾性波探査」やサブテーマ2「大規模ボーリング調査」の成果に基づき、首都圏・近畿圏等の活断層やプレート間地震の断層モデルを構築したり、平野の三次元地下構造モデルあるいは表層地盤の分布モデルを構築して、当地に関する地震動予測（長期評価、強震動評価）の精度を向上させることを目的としている。この目的の実現のため、表1に示す1. から9. の研究課題を設定した。これら9研究課題の成果は、統括研究課題「10. 強震動予測手法の高度化」においてとりまとめられる。

本事業は、国立大学法人 京都大学防災研究所の研究グループとの密な連携により遂行される。また、コア機関のうち東京大学地震研究所は国立大学法人の全国共同利用研究所である。本事業ではこれら機関の共同利用システムを活用して、以下のように全国の研究機関・研究者を糾合する研究体制を取っている。

表1 サブテーマ3「断層モデル等の構築」における研究課題

	研究課題	研究代表者	研究分担者
1	内陸活断層モデル化の研究（地質・変動地形）	佐藤比呂志 （東大地震研）	今泉俊文（東北大）・戸田茂（愛知教育大）・加藤一（山梨大）・石山達也（産総研）・加藤直子（東大地震研）・越智智雄（東大理）・木村治夫（東大地震研）・荻野スミ子（東大地震研）・杉戸信彦（京大理）・岡田真介（東大理）・楮原京子（東北大）
2	地震の繰り返し挙動の研究（トレンチ等）	島崎邦彦 （東大地震研）	岡村 眞（高知大）・千田昇（大分大）・松岡裕美（高知大）・山中佳子・金幸隆（東大地震研）・石辺岳男・室谷智子（東大理）・行谷佑一（東大工）
3	プレート間地震モデル化の研究（地震・測地）	山中佳子 （東大地震研）	谷岡勇市郎（北大理）・鷺谷 威（名大環境）・石川有三（気象庁）・吉田康宏（気象研）

4	プレート間地震モデル化の研究 (史料・震度)	都司嘉宣 (東大地震研)	瀬戸一也・行谷祐一(東大地震研)・武村雅之・神田克久(鹿島小堀研究室)・境有紀・大月俊典(筑波大)
5	動的モデルパラメータの研究	井出 哲 (東大理)	安藤亮輔・松澤孝紀・山田卓司(東大理)・宮武隆・山下輝夫(東大地震研)・久田嘉章(工学院大)・加瀬祐子・堀川晴央・吉見雅行(産総研)・福山英一・呉長江(防災科技研)・青地秀雄(フランス地質調査所)
6	地下構造モデル化の研究(三次元速度・Q)	山中浩明 (東工大総合理工)	古村孝志(東大地震研)・佐藤浩章・東貞成・芝良昭(電力中央研)・佐藤俊明・早川崇(清水建設)
7	地下構造モデル化の研究(表層地質)	翠川三郎 (東工大)	瀬戸一也(東大地震研)・若松加寿江(防災科技研川崎ラボラトリー)・松岡昌志(地震防災フロンティア研究センター)・久田嘉章(工学院大)・中井正一(千葉大)
8	地下構造モデル化の研究(強震観測)	鷹野 澄 (東大地震研)	瀬戸一也(東大地震研)・笹谷努(北大)・松波孝治・大見士朗(京大防災研)・竹中博士(九大)・大井昌弘(防災科技研)
9	海溝型地震の強振動予測のための 海域地下構造モデルの作成	金田義行 (海洋研究開発機構)	馬場俊孝(海洋研究開発機構)
10	強震動予測手法の高度化(統括研究課題)	瀬戸一也 (東大地震研)	古村孝志・三宅弘恵・小林励司・呉長江(東大地震研)